

令和5年度（2023年度） 石川県高等学校野球大会遵守事項

石川県高等学校野球連盟

【試合日の球場入り】

1. 試合の有無の決定は、原則として第1試合開始予定時刻の**1時間前**です。
*試合時間の変更や試合日程の変更は大会本部で協議して各校に連絡します。
2. **選手送迎バス1台のみ所定の場所に駐車可能**です。駐車中は校名を入れたバス駐車許可証を掲示して下さい。それ以外のバス・自家用車は一般駐車場に駐車して下さい。
3. 宿泊されるチームはその都度、事前に大会本部、又は各球場責任者に連絡して下さい。
4. 球場には遅くとも、**試合開始予定時刻の1時間30分前までに到着**し、直ちに責任教師は大会本部へ到着を報告すると共に、メンバー用紙を取りに来て下さい。
5. 試合開始を予定時刻より**30分以上早めることはありません**。
6. 責任教師、監督の変更は、試合開始予定時刻1時間30分前までに所定の様式で届け出て下さい。
7. 球場入りの際、責任教師、監督の服装は試合中と同じものとします。(ただし、責任教師がノッカーの場合は自校のユニフォームでも可)
8. 2試合目以降の控え室入場は、**6回終了後**とし、**試合中のチームに迷惑のかからないように静かに行動・待機**させて下さい。
*毎年、チームからの苦情があります。カメラマン席に入ったり、ベンチの扉を開けて覗いたりしないよう十分注意して下さい。
5回コールド試合の控え室入場は試合終了後とします。
9. 球場選手入り口の施錠について
 - ①一塁側、三塁側選手入り口の内鍵は盗難と外部との接触を避けるため、常に施錠の状態にしておいて下さい。
 - ②解錠が必要な場合（入場時）は、責任教師が大会本部に申し出て下さい。
 - ③正面玄関からの選手入場は原則として禁止します。
ただし、前の試合の展開により、**試合の途中等、ピッチング練習場に入出入りする必要のできたバッテリ**は本部に申し出れば、**正面玄関より入ることを認めます**。
10. 野球用具の控え室への搬入、搬出はベンチ入りの選手（春季・秋季大会は18名、選手権大会は20名）と記録員で行うようにして下さい。控え選手はグラウンド整備に出して下さい。
11. 野球場の周辺（コンクリート部分）をスパイクを履いて通行することは禁止します。
12. チームの入退場などがスムーズに進むように選手団の出入りの際は、必ずまとまって迅速に行動させて下さい。

【攻守の決定】

1. 対戦する両チームの責任教師と主将は、1試合目は試合開始予定時刻の40分前、2試合目以降は6回終了時に定められたメンバー用紙にオーダーを記入して所定の場所に集合して下さい。
2. メンバー用紙には、大会参加登録されたベンチ入り選手をすべて記入し、名前にはふりがなを付けて下さい。**同姓の選手がいる場合、下波線でこのことが分かるように記入**して下さい。主将の印も忘れずつけて下さい。
*メンバー用紙の監督、責任教師の氏名記入欄はメンバー表を確認した署名欄であるをご理解下さい。
くれぐれも**マネージャーや選手にメンバー表を任せない**で下さい。
3. 外部から見える個所の負傷防護のためテーピングやサングラスを使用する時は、**該当する選手全員**が試合前の攻守決定時に使用するものを持参して大会本部と審判委員に申し出て下さい。ただし、投手は投げ手にテーピング等、一切のことはできません。
（野球規則6.02(c)の(7)「投手がいかなる異物でも、身体につけたり、所持すること」は禁じられている）
4. バッティング時に使用するバンテージ等保護具については、ノック時に審判委員が行う用具点検の時に点検してもらい使用を認めます。

【練習補助員・ボールパーソン】

1. シートノックには**練習補助員を5名まで**が参加できます。ユニフォームを着用し、スパイクまたはアップシューズで補助を行って下さい。
2. 練習補助員は**選手ではないので、ノックの打球を受けてはいけません。ただし、1塁や3塁のベースに入っただけの捕球はしても構いません。セカンドベースやカッターマンに入ることはできません。**
3. **補助員となった生徒は背番号の有無に関係なく必ずヘルメットを着用**させて下さい。
4. チーム事情によりマネージャーをシートノック補助にする場合は、**運動着でヘルメットを必ず着用**させて下さい。
5. ボールパーソン係やスコアボード係は全て日番校（球場の補助員）が担当します。**各チームはスタンド係（スタンド内外でのボール回収係）を準備し、スタンド及び場外に出たファウルボールの回収のみ努めて下さい。**

【試合前の練習・シートノック】

1. グラウンド内に入れる部員は参加申込書に登録したベンチ入りの者と補助員5名とします。
* **第1試合でも適用**します。
2. **グラウンド内での選手の服装は試合時と同じものか、各チームで統一されたシャツならびにパンツ**とします。**(各球場第一試合のアップ時のみ)**
* アンダーシャツ、Tシャツのみでアップ等はできません。
* 試合前のランニング、体操時は**アップシューズ（白色、黒色）履き**とします。キャッチボール時よりスパイクを履くことができます。
* シートノック時、アンダーシャツとしてTシャツを使うことを禁止します。
3. グラウンド内ではトスバッティングだけが外野側ファウルグラウンドで可能です。
* フリーバッティングやハーフバッティングは禁止します。
4. シートノックは7分間です。但し、事情により短縮または省略することがあります。
5. シートノック時に投手（または投手役の選手）が投手板に立ってノックを受けても構いません。
6. **ベンチ前でのノックは原則禁止**します。天候によりシートノックが省略された場合は大会本部が時間を区切って認める場合があります。
7. 監督もしくは責任教師以外がノックをする場合は事前に口頭で大会本部へ申し出て下さい。また、ノッカーの服装は自校のユニフォームとし、選手権大会ではノッカー章(本部から配布)を付けて行って下さい。
8. 外野へのノックは、外野のファウルグラウンドから行って下さい。
9. **サイレンが鳴ったら直ちにノックは終了**して下さい。
10. **シートノック中、相手チームはグラウンド内でキャッチボール等をしてはならない。**(危険防止のため)

【ベンチ持ち込み物】

1. 次打者席でのマスコットバットの使用は可能ですが、危険防止の上からも**鉄棒、リングなどのベンチへの持ち込みは禁止**します。
2. ベンチに持ち込める**メガホンの数は1個**（甲子園大会と同様）とし、監督と責任教師のみが使用する。**選手や記録員がメガホンを使用することはできません。**
3. 試合中の**ラジオ、テレビ、携帯電話、パソコン、千羽鶴、ボード、寄せ書き**など試合に直接関係のない物の持ち込みは禁止します。

【試合中】

1. 試合中は、責任教師、監督、記録員各1名と登録選手（春季・秋季大会は18名、選手権大会は20名）以外はベンチ内に入ってはいけません。
2. **選手控え室やブルペン**は、**部員登録された選手またはマネージャーの2名まで**が補助員として入室できます。補助員の増員については大会本部で判断し決定します。
3. **コーチは必ずスタンドにいて観戦**して下さい。**試合中にベンチ付近に近寄るなど行動など疑われる行為は絶対にしないで下さい。**

4. ベンチ内の服装について
 - ①責任教師は、白ポロシャツまたはネクタイ着用の平服とします。
 - ②監督は、選手と同じユニフォーム（背番号なし）を着用し、金具スパイクまたはポイント底のスパイク（白・黒）を使用して下さい。
 - ③記録員は、背番号のないユニフォームまたは制服またはトレーニングウェアのいずれかを着用して下さい。
5. 記録員は、男女を問いません。また、試合毎の変更も可能です。ただし、練習補助員を記録員が兼ねている場合を除き、試合前の練習および試合中にベンチからグラウンドへは出ないで下さい。
6. **試合中の攻守交代を全力疾走で行うとともに、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングの円陣には参加せず、速やかに所定の位置について下さい。**
7. 攻撃側の打者がボックスに入った時は、攻撃側は、ベンチ前の円陣が解けて、ベンチ内に入ることを完了して下さい。また、同様に守備側の控え選手もベンチ内に入ることを完了して下さい。
 - *守備側の控え選手が道具や給水を運ぶ以外で、**ベンチ前に出て並ぶ距離は県立、市民、弁慶スタジアムのいずれも人工芝までとし、絶対に過過ぎないよう**責任教師は十分注意して下さい。
8. 投手のウォームアップ時に、次打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為は禁止します。
9. 投球練習後に捕手が二塁へ送球すれば、直ちに打者は打者席に入るようにして下さい。
10. 次打者は、必ず次打者席へ速やかに入ることを心掛けて下さい。
 - *投手と捕手は、準備でき次第で構いません。
 - *必ず、**投球動作が始まったら低い姿勢になって注視して下さい。投球に合わせてタイミングをとることは可としますが、スイングをしてはいけません。**
11. 本塁でプレイが起きようとしているときに、次打者が周辺に近付き過ぎないように注意して下さい。
12. 守備側が交代の際、選手がダッグアウトへ戻るとき、用具の受け取りや選手を迎えるためにダッグアウトから必要以上に飛び出してはいけません。
13. ベースコーチのマナーについて
 - ①**コーチスボックスから絶対に出てはいけません。**
ベースコーチはヘルメットを着用しており、走者とベースコーチが紛らわしいのでこのことを厳守するよう徹底した指導をして下さい。
 - ②ベースコーチが打者走者（走者）の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為は禁止されています。
 - ③**走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為はフェアプレーに反する行為であり絶対にさせないで下さい。**
14. **投手は手に息を吹きかける行為はしてはいけません。**（例外：天候が寒い日の試合開始前に、両チームの監督の同意があれば、審判員は、投手が手に息を吹きかけることを認めることができる。）
（野球規則6.02(c)の(1)の【例外】
15. **捕手がボールを持たないで、塁線上に位置したり、本塁ベースをふさいだり、走者の走路を妨害する行為を見かけますが、このような行為はアンフェアであり、また非常に危険なプレーでもあります。**『高校野球特別規則』では、**ボールを持たない捕手が立てる位置が規制されており、このような行為に対しては厳しい措置がとられるので、チームで十分周知徹底しておいて下さい。**
16. 捕手は故意にマスクをベースラインの近くに捨てて走塁を妨害してはいけません。
17. **盗塁を援助するために捕手の送球直前にスイングしたり、わざと打者席から前へ出る選手を見かけますが、走者が盗塁を企てたとき、打者が捕手の送球を妨害したか否かは、現実には打者が捕手の守備を妨げただかどうかによって決定されます。また打者がまぎらわしい行動をしたときも守備妨害とみなすことがあります。**
18. 走者が塁へ滑らずに野手に向かってスライディングするなど故意による悪質なスライディングはしてはいけません。
19. 打者走者は打球を処理する野手を避ける以外、両足はスリーフットレーンの内側を走らなければなりません。**（野球規則5.09(a)の(11)）**
20. **死球による安全進塁を得るために投球のコースから逃げない打者がいますが、安全上問題であり絶対に**

避けて下さい。

21. 打者がタイムを要求する時は、投手が投球の構えに入る前でなければなりません。またタイムの要求にはその目的により審判員が認めないこともあります。
22. ハーフスイングのリクエストは捕手が球審に正しく行って下さい。
*他の野手が塁審を指さしてリクエストすることはできません。
23. **本塁打を打った打者を出迎えたり、ハイタッチしたりロータッチすることは、特にベンチ外においては絶対にしないよう心掛けて下さい。**
24. アンフェアなタッチプレーをしてはいけません。
25. 試合中、審判や相手チームに対して**暴言・やじ**は一切慎んで下さい。自チームに対する声援や指示のみとします。**(野球規則 6. 04 (a) の (2) に明記してある)**
また、**捕手が打者に対して惑わしたり平常心を乱すことを目的に語りかける行為はフェアプレーを目指す高校野球にはふさわしくありません。慎んで下さい。**
26. 守備側の選手がプレーもないのに走路に立って、走者を妨害してはいけません。
最近、1 塁手がベースを駆け抜けようとする打者走者の走路をギリギリまで足を出してふさぐことが目立っています。
27. 走者が前方の野手の構えを見て背後からの送球のラインに故意に入ってはいけません。
28. 送りバントをした打者が故意に一塁へのスタートを遅らせ、出会い頭のプレーに見せかけることを禁止します。
29. 投球練習の際、捕手は捕手用具を必ず装着してください。(特にマスク)
30. グラウンド内における**第三打者の素振り**は禁止します。
31. 選手の交代通告は、控え選手が速やかに正確に行ってください。
32. ファールボール(グラウンド内)は素早く回収させて下さい。
*外野手もベンチからの選手とどちらが素早く回収できるかを考えて行動して下さい。
33. **試合中にベンチ入りした選手はスタンドにいる選手と会話してはいけません。**
34. ウィンドブレーカーは試合中、グラウンド内では着用しないで下さい。
*投手のみ認められた場合は可能です。
35. 試合中、審判員に対する規則の適用についての確認や申し出は、必ず問題の当事者、伝令または主将に限ります。その際、常に高校生らしくフェアに行い、観衆を刺激するような言動や時間を長引かせるなどの見苦しい行為は厳に慎んで下さい。そもそも審判員の判断に基づく裁定は最終のものであり、異議を唱えることは許されていません。**(野球規則 8. 02 (a))**
36. イニングの間の**給水は、必ずファウルグラウンドで行って下さい。**また、**口に含んだものを吐き捨てることは絶対にしないで下さい。**また、**容器に残ったものをグラウンドに捨てることも禁止します。**
37. **攻撃が 20 分をこえた場合、選手・審判の健康に配慮し、大会本部が強制的にタイムを取り、給水させることがあります。**この場合、**タイミングについては本部も試合の流れを十分に考慮したものであり、必ず従って下さい。**
38. **捕手の”ミットを動かすな”運動は重点取り組み課題であり、フェアプレーによる技術の向上とマナーアップによる教育をしっかりと認識の上で指導して下さい。**
39. ベンチからのサインをスピーディに出すよう監督は努めて下さい。また、特に**攻撃の時の選手への指示は必ず伝令を使って下さい。**ベンチに選手を呼ぶことはできません。
40. 捕手のブロックサインは禁止します。また内野手から投手へのサインは簡単にして下さい。
41. 投手の不必要な牽制は自粛して下さい。また、**いたずらに捕手が投手へのアドバイスするためマウンドへいく行為も自粛して下さい。**
42. 外野手から投手への返球やボール廻しの時、最終野手は投手に近寄らずに返球して下さい。
43. タイム(30秒以内)は守備側3回、攻撃側3回取ることができます。ただし延長の場合は**1 イニングにつき1回**とします。
44. 試合開始と終了時の挨拶は両チームと審判団が互いに1回のみ挨拶を行い、**審判に向かっての挨拶はしないで下さい。**
*審判の「試合を始めます。礼」の合図で、間を取らず「お願いします」と言いながら挨拶して下さい。
45. 打者が打者席に入るときや、投手がボールをもらうとき、伝令が指示を伝えるにファールラインをまたぐ

時など一々審判などに向かって脱帽する必要はありません。

46. 審判委員の給水対策の一環として**5回終了後（延長の場合は9回終了後も）**にグラウンド整備を行います。両チームのベンチ入り以外の部員は、守備位置の整備にご協力下さい。尚、その時ベンチ前でのキャッチボール、素振りは認めます。
47. 試合中のグラウンド整備について、互いに早さを競う傾向にあり整備が少し雑になっています。整備は丁寧に行うようにして下さい。（定位置、走路を中心に丁寧に整備して下さい）スタンドの選手は、5回裏終了後、試合が終了し校歌が終了してから移動して下さい（延長時は9回）。原則として、整備担当場所を以下のようにします。
1 塁側チーム：ファースト、セカンド定位置、ベース周辺、本塁から1塁と1塁から2塁までの走路
3 塁側チーム：サード、ショート定位置、ベース周辺、2塁から3塁と3塁から本塁までの走路

【試合後】

1. 試合を終了したチームは**勝敗に関係なく、次試合のシートノック前・後のグラウンド整備を行って下さい。勝者は特に頑張ってください。（散水等もあり）**
2. 最終試合に当たった両チームは、試合終了後、ベンチ内、ベンチ裏、ブルペンの清掃、グラウンドの整備、スタンドの清掃を行って下さい。
3. **責任教師は必ず大会本部へ上記の1, 2が終わったことを報告し、試合での注意事項を聞いてから球場をあとにして下さい。**

【その他】

1. 高校野球用具使用制限事項（『**高校野球審判の手引き**』参照）を遵守して下さい。
*ユニフォームのメーカーの商標、マーク・捕手用具の色、スパイクなど
2. 貴重品管理（特に選手控え室）については、各校とも十分注意して下さい。
3. 責任教師は**マナー違反やアンフェア**な行動をとらないよう普段からチーム全体を指導して下さい。
4. 茶髪、眉剃り、ひげ、もみあげ…等の校則違反の禁止を徹底して下さい。
5. **ユニフォームの着こなしをしっかりとさせて下さい。**
6. 高校野球は教育の一環であることを念頭に指導をお願いします。

【応援団に関して】

1. 応援団の行動は当該校に一切の責任があります。指導の教師が必ずつかれるようお願いします。
2. 応援団を組織した学校の応援団引率責任者は、球場に到着し次第、大会本部にお越し下さい。（本部役員との打ち合せ後、腕章を渡します）
3. 責任教師及び応援団責任者は応援に関する注意事項（別紙）が確実に実施されるようご指導下さい。
トス時に大会本部にて応援責任者（教職員又は生徒）に対し応援マナーに関する確認を行います。
4. **スタンド内での部員または各校応援団による笛の使用を禁止します（指笛を含む）。ファウルボールが飛んだことを教える警笛と同じであり、甲子園でも使用が禁止されています。**

【報道による取材について】

取材は報道関係者と次のような取り決めをしています。

【取材場所】**ベンチ裏控室**または**室内ブルペン、監督控室、球場外**に限ります。
ベンチ内での取材には一切応じないで下さい。

【試合前】試合前の取材は**トスまで**とする。

【試合後】試合後の取材は**約15分**を超えない程度です。カメラ撮影はグラウンド内では**5分以内**、その後は**球場の外で**、各チームの判断で応じてかまいません。